

兵庫分工場	三、〇三九	一七四	四二七	二五三
群合分工場	八七六	六九〇	七四〇	五〇
計	一七、四八一	二、七五四	四、〇四八	一、二九四

本工場各部別(第二日出勤者)

役付	一般職工	附屬	
	造船	四二七	一八九
造船	機	二〇七	二二九
	電	〇	九
製造	兵	八	七
	築	〇	一

争議團にては斯く多数の被検束者を出して憤激極度に達し一部の幹部は「決死隊」を組織すべしとさへ叫びし程なりしが、當日間諜として入場せる委員等の報告の結果は出勤總數千五百名を超へずと會社側の聲明を否認せり。幹部數十名は午後より深更まで腕車を驅りて職工の自宅訪問を續け會社の切崩し運動に對抗せる外憤死職工上谷青年の「神戸五萬の罷工労働者諸君へ」と題せる遺書の印刷及び左の檄文を配布して「横暴なる資本家を倒すまで戦はれん事」と激勵して結束固めに奔走せり。

争議團員諸君に急告

我等の今回の要求は絶対的のものにして幾かの懸値とならざる限り我々の要求の貫徹する迄は罷工を堅持する所である。

高幹部會に於ては既に決定した。尙今後如何なる方面より何人の名を以て如何なる報告や通達が有るとも最高幹部の言若しくは各部及各區の事務所に揭示したる事柄以外は必ず信用してはならない。同盟罷業に關する宣言書は廿五日の新聞に發表しましたが尙念の爲間違なき様御通知致します。

大正十年七月二十五日

川崎争議團本部

會社側、争議團側の對峙戦は尙盛に繼續し切崩し運動に對する結束運動は根氣よく繰返されたるが、職工軟化の頽勢は俄かに挽回し得べくもあらず、入場職工の數は次第に多きを加へたり。第三日(二十七日)の入場者として會社側の發表する處左の如し。

出勤者(第三日)

全員	前日	第三日	増人員	
	出勤	出勤		
本工場	一三、五六六	二、八八一	四、七五〇	一、八六九
兵庫工場	三、〇三九	四二七	五七八	一五二
群合工場	八七六	七四〇	七六四	二四
計	一七、四八一	四、〇四八	六、〇九二	二、〇四四

本工場部別(第三日)

造船	前日	第三日	増加
	出勤	出勤	
造船	一、八八九	三、一〇三	一、二一四